

東大斗争の組織指導上の総括

羽田斗争の東大斗争における階級斗争に占める位置とその発展の方向性について、口頭報告で、更に口頭報告で入試中止をめぐる個別斗争なら全人民斗争への飛躍の契機を示す、口頭報告では入試中止後の大衆斗争を全国化する組織方針、全国学園共闘連合として物質化してゆく方向性をあまじく示した。この視座にともなうに、個別東大斗争の枠を突破した高次の局面を革命党派として抱え出す戦期一六二号政治方針を提起した。羽田斗争は、戦期一六二号論文を組織の基盤にあき、革命党派として主体的指導の階級上指導理論上、組織政策上の問題として更に前進を求め、必要に迫られている。

そのための基本総点とは、階級党を指導する同盟、東大斗争において、革命派的に何を得たの女性組織指導上何を武器として突きつけられたのなという内的な批判を内面化せなければならぬ。

①、普通的全人民斗争としての政治斗争と、個別斗争を基盤とする階級党における部隊形成、団結の負との、相互関係の発展、11月、12月羽田斗争は、大の不安定斗争以後の政治斗争の模範を形成した日韓斗争に次ぐ日中の復讐反革命階級に反対する最高の政治斗争であった。プロレタリア国際主義と組織された暴力の思想に交えられた二つの羽田斗争を担った部隊は、日韓後の末端階級を階級階級に攻める陣地戦で形成された党派部隊であった。

すなわち東大斗争、中文字館斗争、東交反合斗争に代表される暴力末端支配強化との対決を日韓を突破口としてアジア偉業を開始した日帝の帝国主義再編との対決として意識化した部分、なる団結の負を獲得した部分、三つの砂川斗争とステツアとしながら、さらさら、12月斗争への飛躍したのである。

そのさらに、早大個別斗争、日韓政治斗争を闘った意図は、階級部隊を形成し、早大個別斗争における改良の要求を八象と共に獲得し、ついで決戦をめぐる個別斗争改良斗争の団結の負と帝国主義末端支配に反対する団結の負は、個別斗争過程で分解し、敵対した労働者、帝国主義政治の攻撃にたいして対応し、主に、左日本帝国主義の分解を東交斗争で明らかにした。暴力と階級斗争の対決を暴力から決定的な暴力斗争を闘い、社会の組織統制定分（組合を除く）権利停止）に自願した解放階級労働者の運動は、二二に開始されたのである。

②、羽田斗争以後、暴力対三派の攻防を基とする階級階級八象の戦線と三派の分解、二二

階級階級八象の戦線と三派の分解、二二

換した。二の厳しい階級階級は、三派の設定する斗争に全戦路を向けた。社青同の脱落と羽田斗争を放棄した革マルの才二戦線への脱落は必然であった。そして才二地区反戦運動の分裂をも捉進した。羽田斗争なら脱落した革マル派は暴力と三派の攻防を基盤とするあらゆる階級関係の中で才二戦線への脱落し、階級階級とどの市民主義連合、自治会共闘を形成した。党形成論を主解放も才二戦線への脱落を開始し、中核派に對抗して革マルと野党連合、六、五問題を頂点として三派からの脱落を組織的に確定的なものとした。

中核派は、エンプロ斗争を突破口として中核派全連を街頭における反安保―自衛帝国主義打倒のラジカルな行動部隊と位置づけ、拠点学園での陣地構築を放棄し、党のための斗争を街頭政治斗争におけるラジカル性において表現させ、階級激動を招く市民社会内部のプロレタリアの政治流動を中核派反戦へと押し込んで、量的拡大を計った。才二期反戦運動の特徴は中核派全学連のラジカルな単独街頭斗争、中核派反戦への回帰、及び運動に一面的に休現されたことである。

また、中核派は単独全学連の連続斗争によって党派の組織結集力を強めた反面、拠点校を喪失、物的組織力に痛打を受け、その後の学園斗争の高揚の中で、才二を失った。中核地区反戦運動も、革命的労働運動の激発にたいして、組織拡大は10月以前から停滞している。

彼ら中核派は、一派独走路線の行結りと、暴力との緊張関係と、日共の攻げきによる拠点喪失に規制された六、五問題の自己批判的意志を示しつつ、10月斗争への合流を試みてきた。

④、マント、中核派は組織された戦略部隊形成と拠点堅持の二重の任務において何を向かうかの、羽田斗争は、学園拠点斗争としての中文字館斗争、エンプロ斗争と同時的に闘い、抜くという従来の学園斗争にならぬことをやりとげた。そして羽田斗争を個別中文字館斗争を通して、学園内部に構築し、あらたな革命的団結の負を形成する力をみずから回った。

そして組織された戦略部隊と即自的大象斗争部隊との意識の谷間を埋めつ、大衆的「暴力」斗争部隊形成の契機をつくり出した。大衆斗争部隊をのり越える大衆的「暴力」部隊は未だ同明の戦術戦術で理論的にも組織的にも武装され、つては、ない、あまじく、日共民青の日和見的反革命性を即自的、乗り越えるものとしてあった。中文字館斗争を頂点とする全国私学における大衆的暴力斗争部隊の登場と、共闘共闘を普遍化する突破口を切り開いた。

羽田斗争は、階級階級八象の戦線と三派の分解、二二

階級階級八象の戦線と三派の分解、二二



人民戦争として展開され、戦後戦争の境域内に於いて大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

オニオナ、戦後戦争の境域内でのその現局面の位置と総括及び展望を論じている。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

の軍人々を救済し行われなければならない。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

④ 本大 全大の発展と戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

戦後戦争の境域内での大衆の地位を異にする向題である。わが国は、この政治過程の総括を以て、大衆の地位を異にする向題を再び提起しなければならぬ。

は明らかで、全共闘各派の巨額な資金をばらまき、反共一全受雇を統一戦線の軸として、反共的左翼の組織的活動を妨げて、社民の反安保闘争に反共部隊を召喚して解散派、反田に主力をあげ、神田においては、同等の役割を果せが過ぎた。野景は当然、解散派はあつた。日打、一保、折原を結果軸とする新王系、全共闘への参加を促すことはできぬであろう。

8-19を叩きぬいたスト及び中核、M.L.Cのみ、東大生共闘を担う政治的階級の資格をもつのである。山本は断固として重マルを打ち、批判を集中して、メンツをせねばならぬ。東京地区反共連絡会議の歴史的伝統を破壊し、分裂を策し、社民の体内深く入りこみ、社民とともに三派排除を実践的組織方針とする必要を決定した解散派は完全に回復の必要があり、最終的に歴史的に解体戦術を駆使して、反共的勢力を解散させ、メンツをなげればならぬ。

当然、反共一全受雇各派への結果の対象はなくなり、山本は反共一全受雇に公然と競争を挑み、大衆的に解散派の反共的抑圧性を全四則にバックロヒンぐはならぬ。

全四則共闘は8-19闘争を転換点とする、東大生共闘の史的組織的再編と全四各地の共闘会議の史的再編を二一三月闘争でやりぬく中で、現実的再編課題となる。

当派全受雇の史的再編への要求と、これを即ち実行として、全四共闘を討伐への要求は、10-21以降形成された階級関係、反共闘争のあり、七〇生安保闘争を叩きぬくために不可欠の反共統一戦線への組織方針である。

(以下)